

香川県総合防除実践指標（ニンニク）

No.	予防	判断	防除	実践項目 対象病害虫・雑草	実践ポイント	点数	チェック欄	
							実施 目標	実施 状況
1	○			ほ場管理	植付け前に石灰類を施用し、土壌酸度を矯正する。	1		
2	○				地下水位の高いほ場では高畝栽培を行う。	1		
3	○			種子消毒	農薬による種球消毒を実施する。	1		
4	○			本舗周辺の管理	ほ場周辺の雑草を除去し、アザミウマ類、アブラムシ類等の侵入を防止する。	1		
5		○		病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報を入手し、確認する。	1		
6		○	○	防除要否の判断	アザミウマ類、アブラムシ類等の発生は年次変動が大きいので、発生状況を確認して早期防除を行う。	1		
7	○			白絹病対策	発生ほ場では初穀や切わらを土壌混和、土寄せ資材として投入しない。	1		
8		○	○		適期に有効薬剤を散布する。	1		
9	○			病害虫共通	ネギ属との連作を避け、3～4年水稲と輪作するか、田畑輪換を行う。	1		
10	○		○		病害虫被害茎葉および残渣はほ場周辺に放置せず、適正に処分する。	1		
11			○	雑草対策 (全面土壌散布)	砕土を丁寧に行い、土壌表面をならしておく。	1		
12			○		植え付け、活着後、雑草の発生まだにはほ場全体に散布する。	1		
13			○		土壌が乾燥していると効果が劣るので土壌が湿っているときに散布する。	1		
14			○		散布は低圧で均一に散布する。	1		
15		○	○	雑草対策（全般）	草種により適切な除草剤を選択する。	1		
16		○	○		激しい雨が予想される場合は使用を避ける	1		
17		○	○	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1		
18		○	○		当該病害虫・雑草に効果のある複数の農薬がある場合には、飛散しにくい剤型を選択する。	1		
19		○	○		適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1		
20		○	○		作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに、当該地域の病害虫において強い薬剤抵抗性の発達が確認されている農薬は使用しない。	1		
21		○		作業日誌（重）	種子消毒の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1		
（重）栽培管理状況について記録することは重要な実践ポイント。					21点、21ポイント	合計点数		
						合計実践 ポイント数		
						評価結果		